JIC 日本インシュレーション株式会社
Established in 1914

証券コード：５３６８

個人投資家向け会社説明会

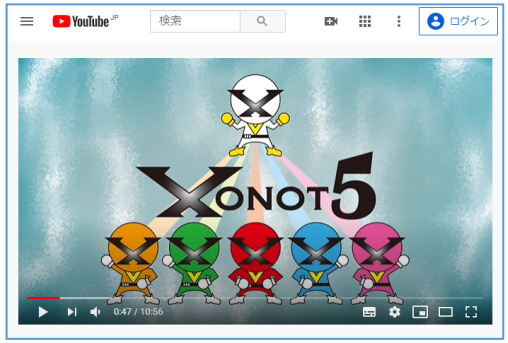
2021年12月6日

防災・省エネを通じて、産業・社会や地球環境に貢献する

目 次

1.	決算報告	P.3
2.	当社グループの概要	P.10
3.	当社グループの事業	P.15
4.	当社グループの強み	P.22
5.	今後の方針	P.27
6.	中期経営計画の概要	P.34
7.	今期のトピックス	P.41
8.	（参考）決算実績等	P.44

～会社紹介動画もぜひご覧ください～
https://youtu.be/nLBraAnkct4



「XONOT5」について

日本インシュレーションは、独自のXonotlite製造技術を活用して、都市防災や省エネルギーを通じ産業・社会に貢献しています。
私たちは、そのことをゾノトライトの戦士「**XONOT5**」で表現しています。

○→Xonotlite（ゾノトライト）
●→Fireproof（耐火）
●→Ecology（環境・エコ）
●→Reliable Quality（安全・品質）
●→Energy Saving（省エネ）
●→Diversity（ダイバーシティ）

決算のポイント

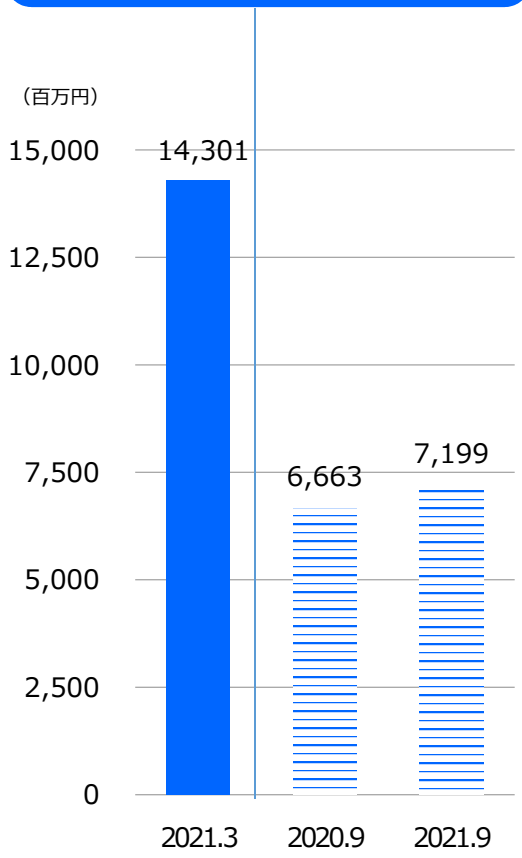
JIC

- 2022年３月期第2四半期は前年同期比8.0%増収、187.2%増益で着地。
- 工事部門では、物流施設・オフィスビル等での耐火被覆工事、プラントの保温工事（定修工事、大型建設工事）が堅調。販売部門では、コロナ禍の影響で需要減少が継続するも、自動車向けの型材などの需要が今後、回復の見込み。
- 連結子会社ジェイ アイ シーベトナム有限会社では、コロナ感染症拡大の影響に伴い、断続的な操業状態が続いている。
- 2022年３月期通期業績予想は、売上高13,945百万円、親会社株主に帰属する当期純利益1,053百万円に上方修正。

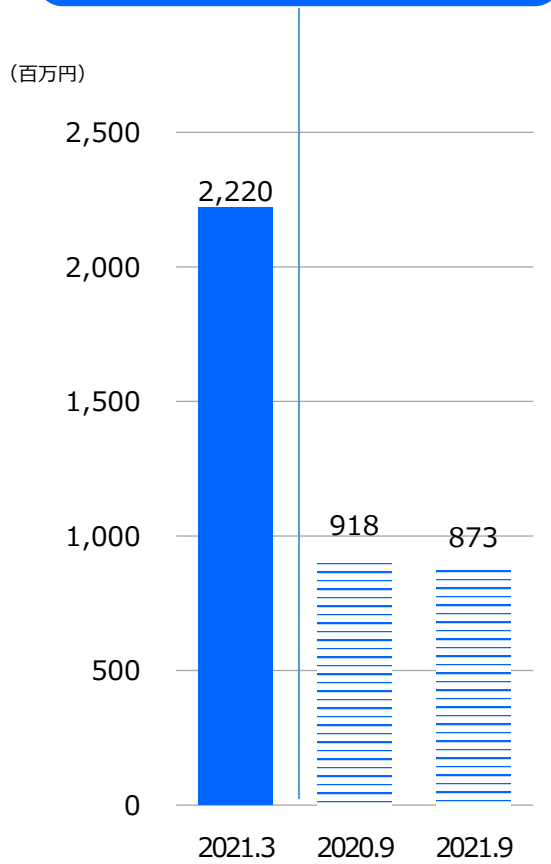
連結売上高・経常利益・当期純利益

- 2022年3月期第2四半期の売上高は7,199百万円となりました。
- 損益として、経常利益が873百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は450百万円となりました。

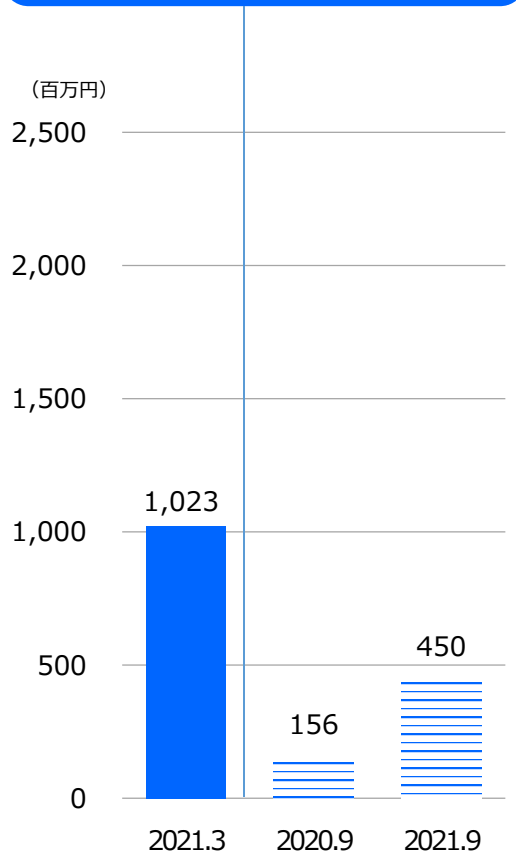
売上高



経常利益

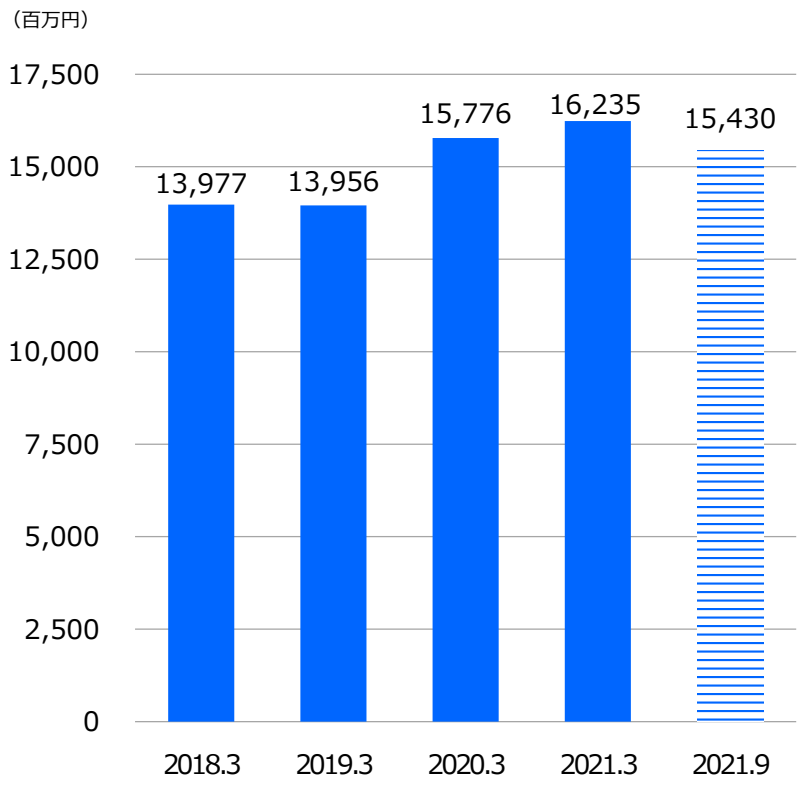


親会社株主に帰属する当期純利益

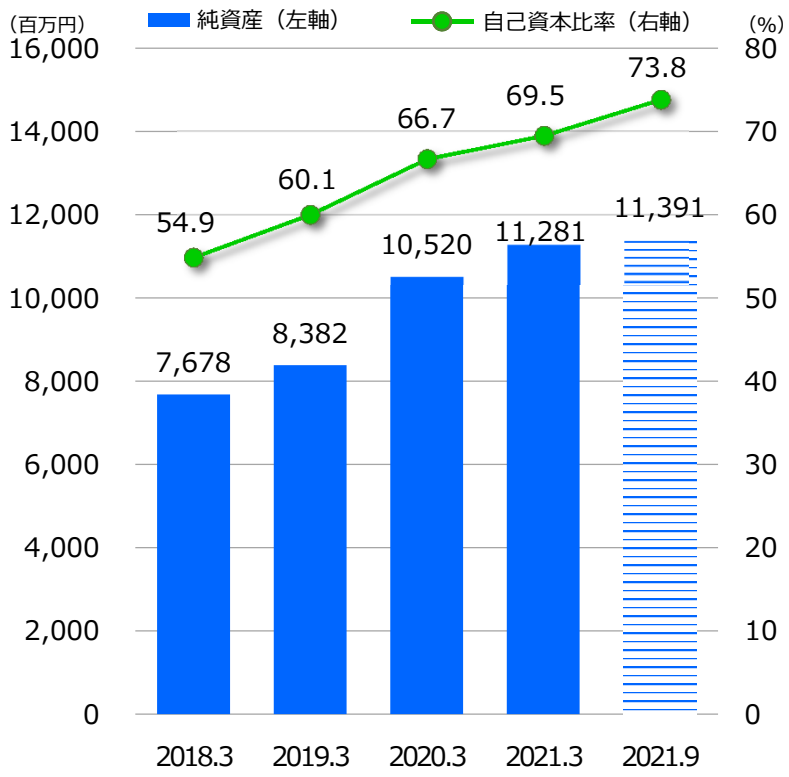


総資産・純資産・自己資本比率

総資産



純資産/自己資本比率



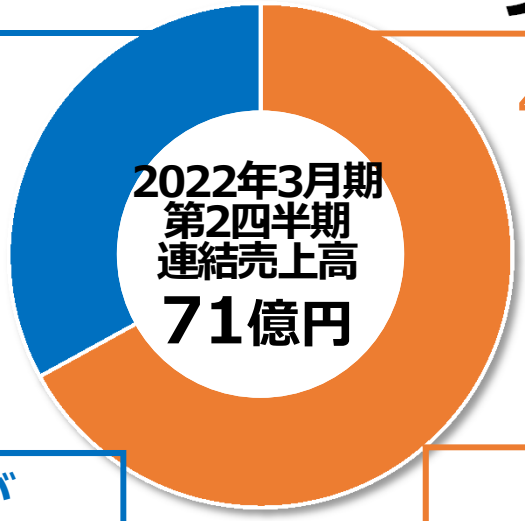
事業別売上構成

JIC

建築関連事業

23億円／33.0%

●耐火被覆材、内装仕上材等の販売・施工



プラント関連事業

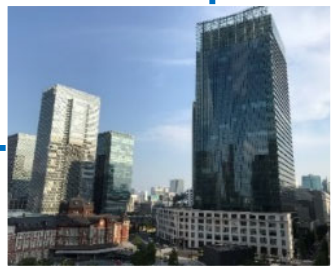
48億円／67.0%

●保温材等の販売・施工

主な用途市場

建築基準法に基づく防・耐火処置が必要とされる建築分野

○オフィスビル
○商業施設（ショッピングモールなど）
○物流施設
○生産施設（工場など）
○交通施設（空港や駅など）



主な用途市場

各種の熱機器を使用するプラント分野

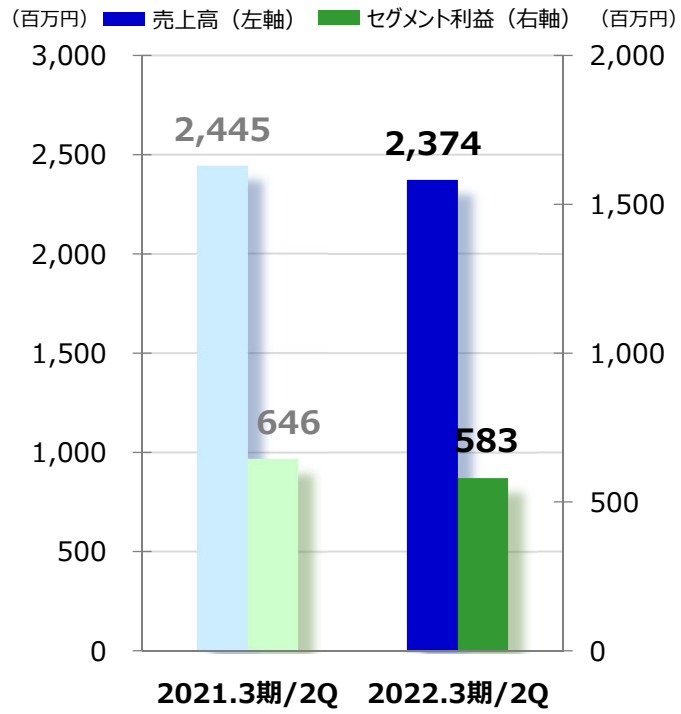
○火力及び原子力発電プラント
○石油精製・石油化学プラント
○化学プラント
○製鉄プラント
○その他プラント

セグメント別の状況 建築関連事業

JIC

（単位：百万円、%）

	2021/3期 2Q累計	2022/3期 2Q累計	増減	増減率
売　上　高	2,445	2,374	△70	△2.9
セグメント利益	646	583	△62	△9.7

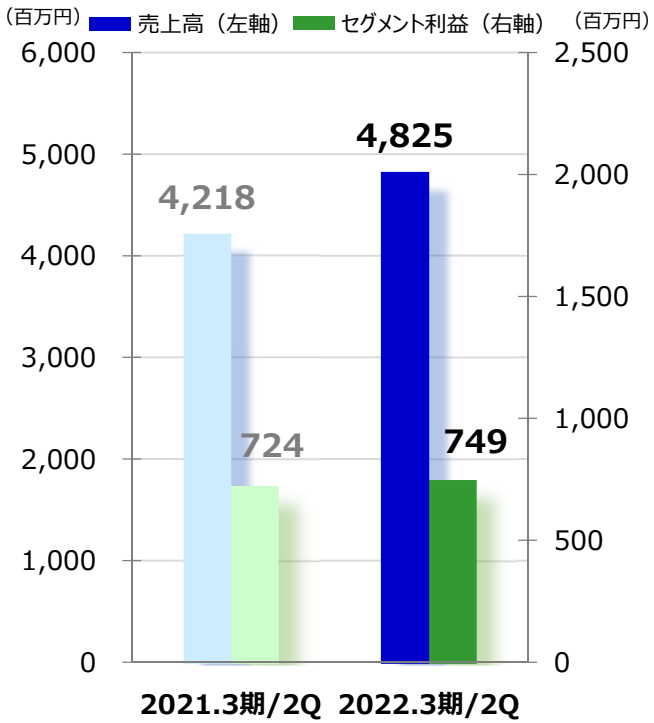


- 工事部門の需要は、物流施設等を中心にほぼ当初の計画通りに推移。
- 販売部門の需要は、コロナ感染症の影響で耐火被覆材の中小案件の回復が遅れており不振が継続しているが、不燃内装材や自動車向け型材の需要が持ち直しつつある。

セグメント別の状況 プラント関連事業

（単位：百万円、%）

	2021/3期 2Q累計	2022/3期 2Q累計	増減	増減率
売　上　高	4,218	4,825	＋606	＋14.4
セグメント利益	724	749	＋24	＋3.4



- 工事部門の需要は、石油・電力プラントでの定修工事、大型建設工事において堅調に推移。
- 販売部門の需要は、国内一般顧客のメンテナンス需要の減少で不振が継続。

2022年3月期業績予想

JIC

●期首予想に比し、売上高8.1%　営業利益11.2%　経常利益13.9%
親会社株主に帰属する当期純利益22.6%の増収増益の見込み

（単位：百万円、%）

	2022/3期 当初予想	2022/3期 修正予想	増減	増減率	2022/3期 2Q累計	進捗率
売　上　高	12,900	13,945	1,045	8.1	7,199	51.6
営業利益	1,592	1,770	178	11.2	837	47.3
経常利益	1,565	1,783	218	14.0	873	49.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	859	1,053	194	22.6	450	42.7

当社グループの概要

会社概要

社　　名	日本インシュレーション株式会社 JAPAN INSULATION CO., LTD.
創　　業	1914（大正3）年4月8日
設　　立	1949（昭和24）年1月14日
代　表　者	代表取締役社長　吉井 智彦
本　　社	大阪府大阪市中央区南船場一丁目18番17号
資　本　金	1,200百万円（2021年3月末現在）
連結業績	●売 上 高：14,301百万円 ●経常利益：　2,220百万円（ともに、2021年3月期）
従業員数	●連結：364人　●単体：307人（ともに、2021年3月末現在）
事業内容	ゾノトライト系けい酸カルシウムを基材とした 各種の防耐火建材、保温材等の製造、販売及び設計・施工
グループ会社	海外連結子会社：1社（ジェイ アイ シー ベトナム 有限会社）

当社グループの歩み

高耐熱性の
ゾノトライト系
けい酸カルシウム材の
工業化に
世界で初めて成功

1914年 創業
個人事業「大阪パッキング製造所」設立
⇒1936年に合名会社に改組

1927年
大阪工場
（大阪市西区に移転）

1930年
大阪新工場
（大阪市西成区）

1949年 設立
株式会社に改組

1960年
岐阜工場
（岐阜県）

1966年

1989年 社名変更
「日本インシュレーション株式会社」に改称

1989年
北勢工場
（三重県）

2014年 海外子会社
ベトナムに100%子会社設立

2016年
ベトナム工場
（ベトナム）

2014年【創業100周年】

戦前

戦後（1945年～）

＜ JICの世界初・日本初 ＞

1966年	ゾノトライト製法開発　世界初
1968年	ゾノトライト新製法が、けい酸カルシウム耐火被覆材の耐火構造認定の基礎となる
1976年	ゾノトライト新製法が、けい酸カルシウム保温材のJIS規格の基礎となる
1994年	ISO9000シリーズ認証取得　国内建材メーカーで初
1996年	新JIS認証取得　建材試験センターの第1号認証取得
2008年	DBJ環境格付　中堅企業で国内初
2016年	もみ殻由来保温材「ダイパライト-E」実用化　世界初

ちょっとマニアックな「ゾノトライト」の話

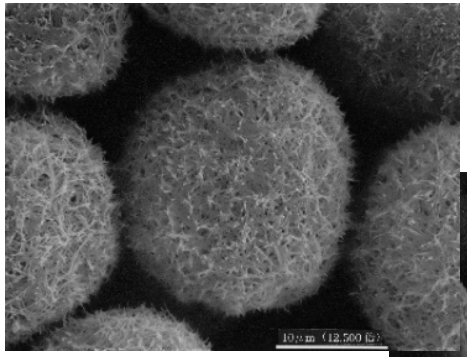
【高耐熱性のゾノトライト系けい酸カルシウム材】

JIC

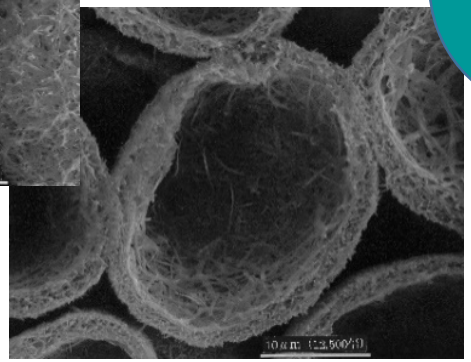
1000℃に耐えることで…

- **鉄骨の建物を倒壊から守ることができる**
- **高効率な発電装置の高温環境でも使用できる**

保温材向け



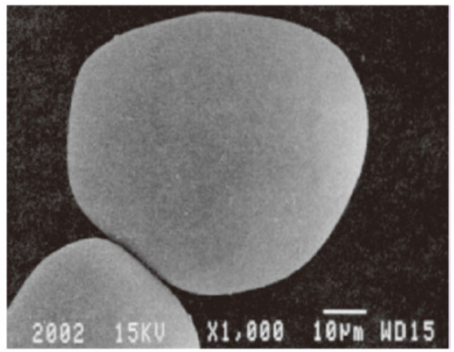
↓断面



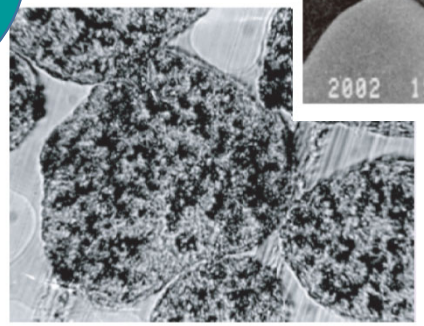
中空で内部の空気が
断熱性を高める

**ゾノトライト
2次粒子**

建材向け



↓断面



充実で
強度が高い

耐熱性の違い

トバモライト

最高使用温度650℃

$5CaO \cdot 6SiO_2 \cdot 5H_2O$

加熱前

1000℃で加熱後

従来

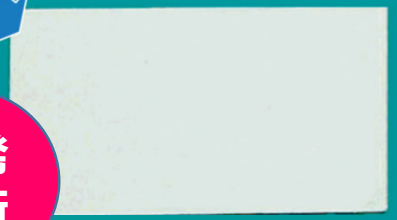
結晶の中の水分量が耐熱性に影響している

ゾノトライト

最高使用温度1000℃

$6CaO \cdot 6SiO_2 \cdot H_2O$

加熱前



1000℃で加熱後

**開発
技術**

当社の使命

JIC

日本インシュレーション

熱、電気、音、振動などの
絶縁材・絶縁行為の意味

社名に込めた意思

主に耐火・保温・断熱等、熱を対象とした絶縁材の製造と絶縁工事を通じ、

省エネルギー化による地球環境の保全と、
建築物の防・耐火化による人命・財産の保護を通じ、
産業・建物の防災・強靭化に貢献する

当社グループの事業

建築関連事業の概要

JIC

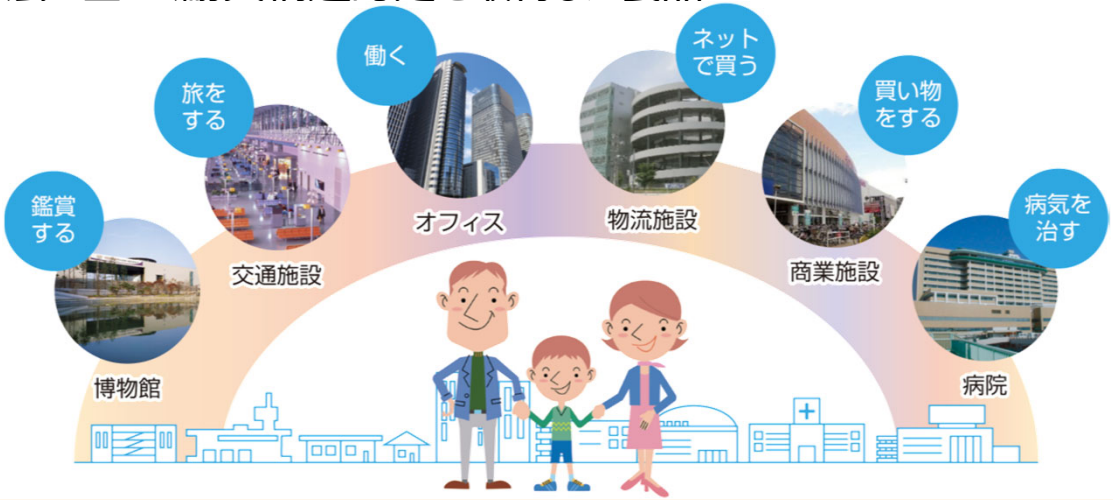
■建物の防災

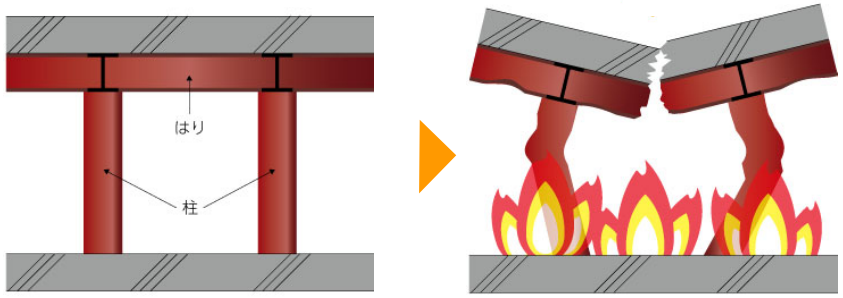
＊耐火被覆材とは・・・

熱に弱い鉄骨のはり・柱、免震装置など、建物の構造部材を被覆

⇒ **火災時に、火炎や熱から守り、建物の倒壊を抑制する役割を担う**

建築基準法に基づく耐火構造認定を取得した製品

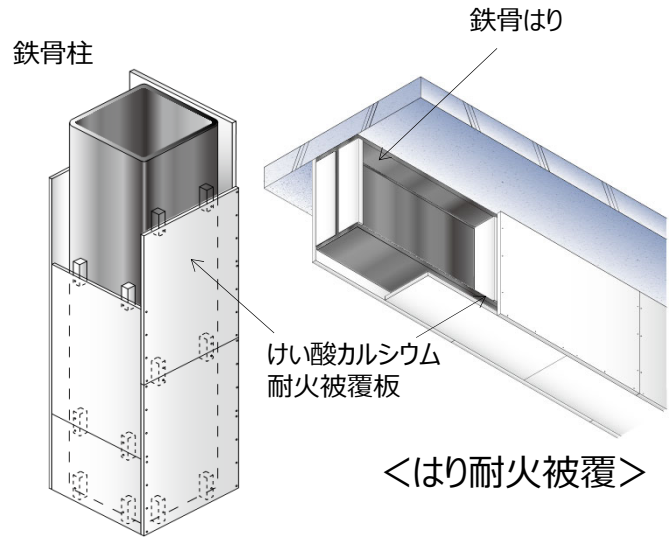




- 鉄は400℃を超えると大きく強度が低下します。1000℃を超える火災に遭うと、鉄骨造の建物は倒壊してしまいます。
- 熱に弱い鉄骨の柱やはりを被覆して建物の倒壊を抑制する役割を担うのが耐火被覆材です。

建築関連事業　～主力製品の紹介～

JIC



はりと柱の耐火被覆

タイカライト

柱の耐火被覆（オフィス）

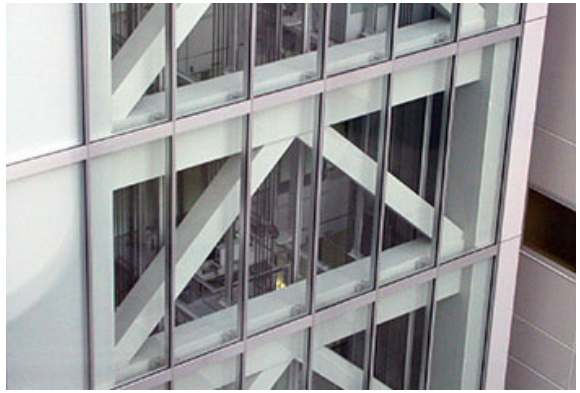
柱・はりの耐火被覆（物流施設）

けい酸カルシウム耐火被覆材の特徴

（他の耐火被覆材との比較）

- **乾式工法で工期短縮に貢献**
- **工場成型品で品質が安定**
- **仕上げ兼用で柱を細くできる（＝有効床面積を大きく取れる）**
- **ボードなので見栄えが良い**

はりの耐火被覆（商業施設）

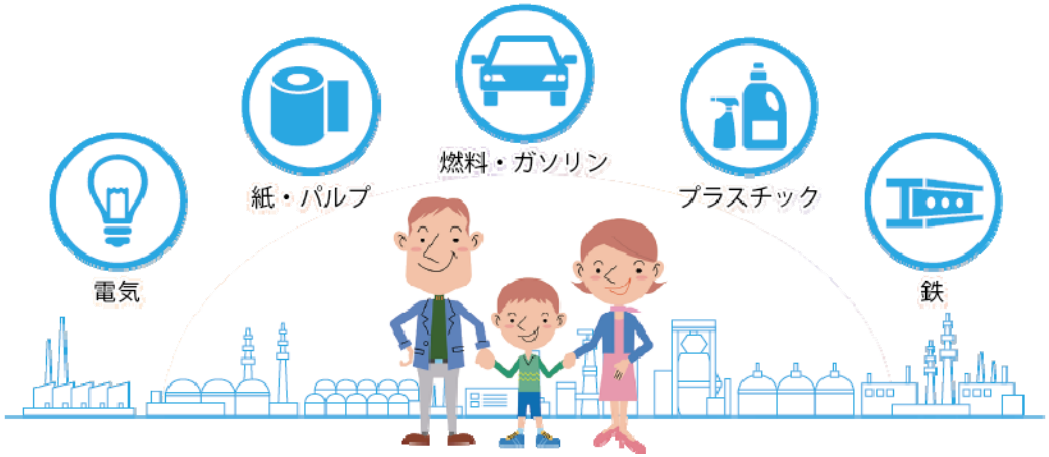


EVシャフト・ブレースの耐火被覆（複合ビル）

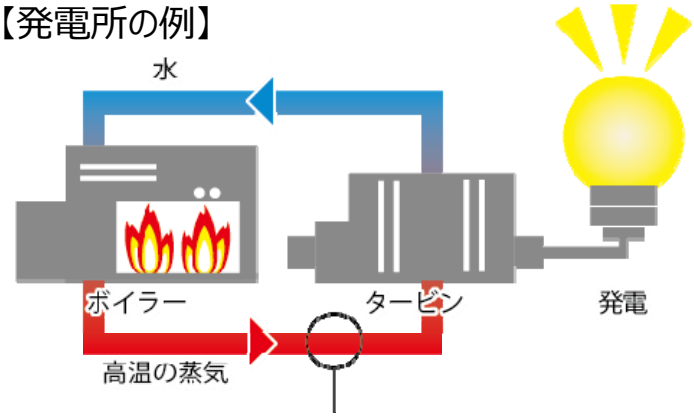
プラント関連事業の概要

JIC

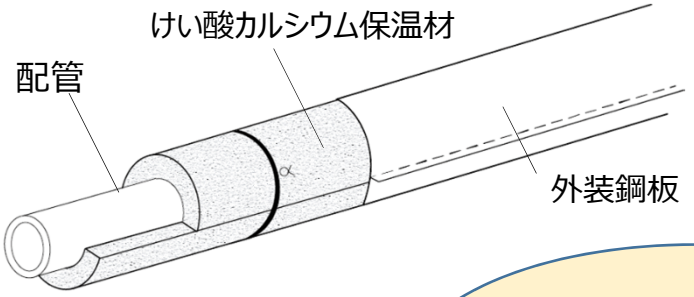
■工場・設備の省エネルギー



【発電所の例】



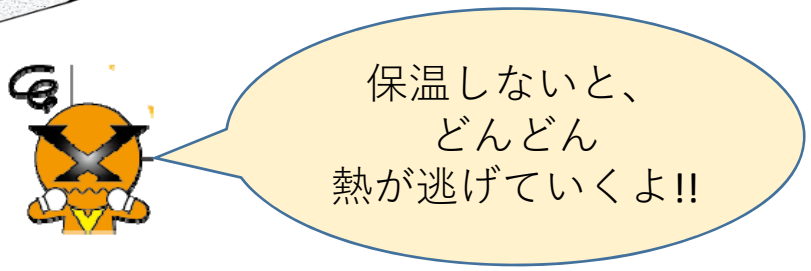
【保温材の施工例】

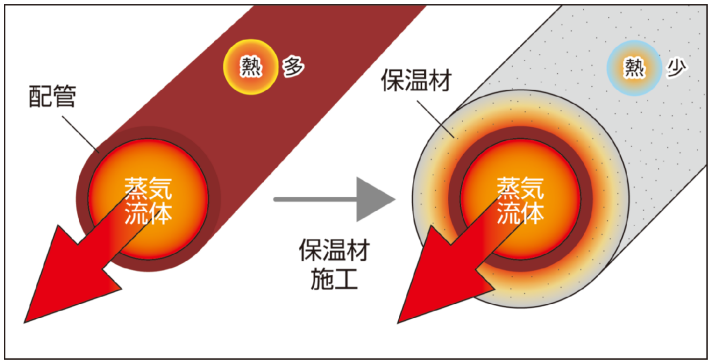


＊保温材とは・・・

工場の配管や機器を被覆して内部の熱を逃さないようにする製品

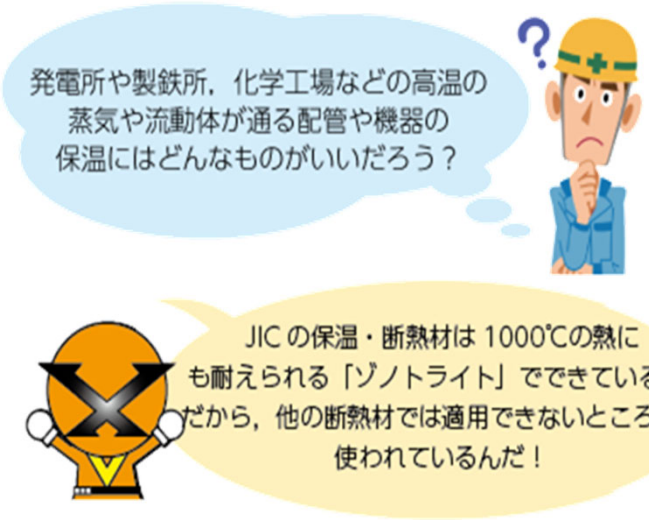
⇒ **エネルギーのムダを防ぐ役割を担う**





プラント関連事業　～主力製品の紹介～

JIC

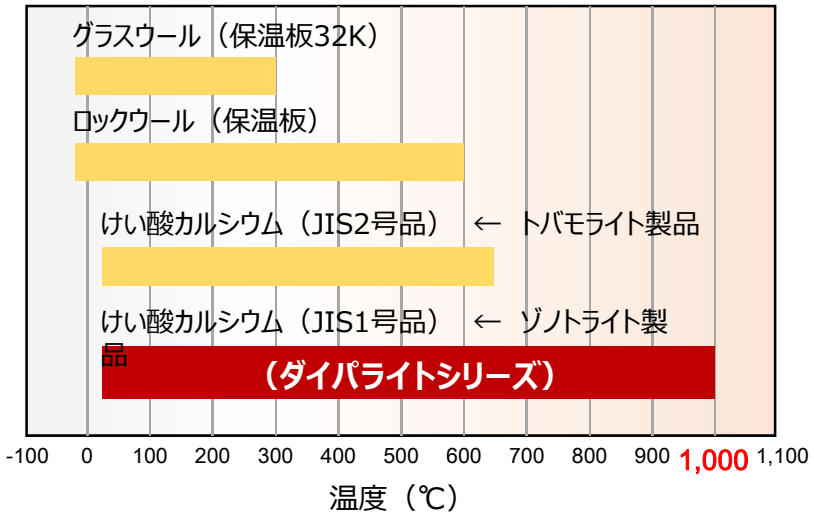


ダイパライト

当社のけいカル保温材の特徴

- **軽量で高い断熱性**
- **1,000℃と極めて高い耐熱性**

【各種保温材の使用温度比較】



保温材取付け（施工中）

施工完了

営業体制

JIC

● **高層ビルなどの建築物が集中する都市部からプラント施設が集中している地域まで、営業拠点を全国展開**

建築関連事業

- 営業開発グループ
- 関東支社
  - 営業グループ
  - 販売グループ
- 東北営業所
- 関西支社
  - 営業グループ
  - 販売グループ
- 中部営業所
- 九州営業所

プラント関連事業

- プラント海外営業部
- プラント営業開発部
- プラント販売部
  - 東京販売グループ
  - 大阪販売グループ
  - 九州販売グループ
- 東日本支社
  - 鹿島営業所
  - 京浜営業所
  - 新潟営業所
  - 苫小牧出張所
  - 福島出張所
  - 女川作業所
- 京葉支社
  - 千葉営業所
- 西日本支社
  - 三重営業所
  - 倉敷営業所
  - 大阪営業所

生産体制

国内最大の供給・アジア販路拡大のための工場体制

国内2工場で150名体制

海外1工場で
60名体制

岐阜工場	主に、プラント市場向け製品（保温材）を生産
北勢工場	主に、建築市場向け製品（耐火被覆材、不燃意匠内装材等）を生産
ベトナム工場	主に、東南アジア・東アジアのプラント市場向け製品（保温材）を生産

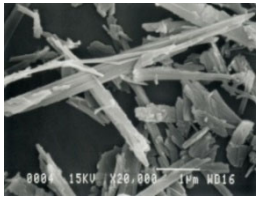
当社グループの強み

経営者の目から見た自社の強み

JIC

1. 独自の**製造技術力**と、他分野展開に結びつく**研究開発**
2. 自社工場製造と材工一貫による**高い収益性の実現**
3. 長年にわたり育んできた**安定した顧客基盤**

強み－製造技術力と研究開発力

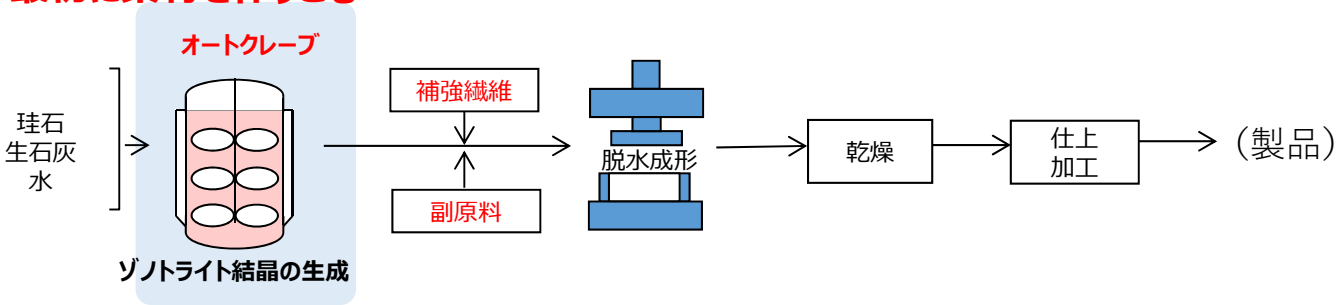


膨大なノウハウの蓄積が不可欠な製造技術を確立

当社製法

ゾノトライト系
けい酸カルシウム
製造方法

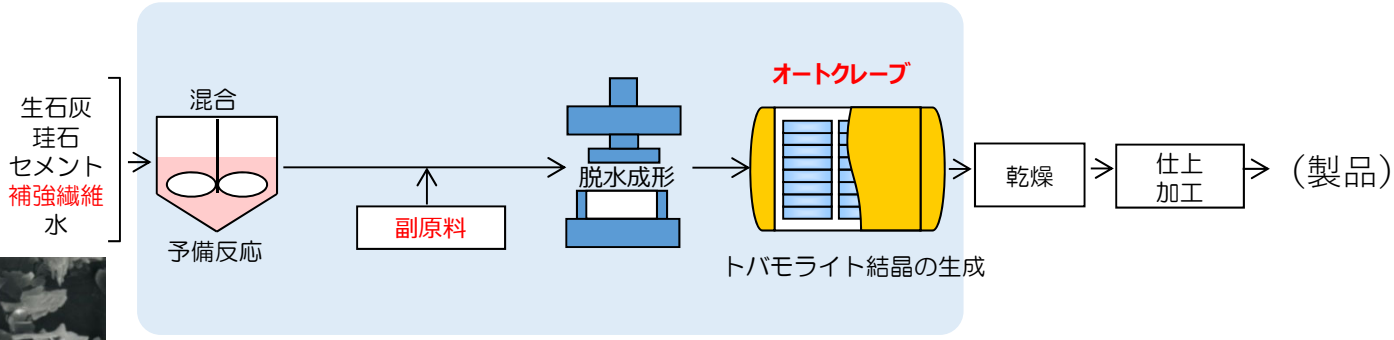
最初に素材を作りこむ

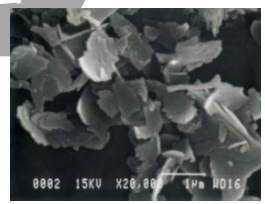


この製造技術が耐火被覆材・保温材の無石綿化の基礎となり、海外技術輸出へとつながった

従来製法

トバモライト系
けい酸カルシウム
製造方法





網掛け部分は強アルカリの環境

強みー　高い収益性の実現

JIC

実施製造・出荷から施工に至るプロセスを自社一貫管理 ▶ 高い収益性と品質管理を実現

自社工場で、
工事現場の施工者が
作業しやすいよう、
荷積みや梱包する。
⇒ 施工現場での
作業生産性がアップ！

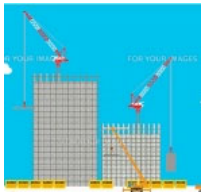
工場でプレカット出荷し、
現場廃材を極小化。
⇒ 環境にやさしく、
コスト削減！

自社工場

営業から工場へ
細やかな指示

製品輸送

自社工事



自社製品なので、
工場も納期調整も容易。
必要な材料の増減も迅速対応
⇒ 材料の無駄がない！

自社の工場から材料を
仕入れるので、
マージンがかからない。
⇒ 産地直送！

強みー　安定した顧客基盤

JIC

長年にわたり育んできた安定した顧客基盤

建築事業

プラント事業

石油化学工場

施主・設計事務所
ゼネコン

顧客基盤

電力・石油・石化・鉄鋼会社
エンジニアリングメーカー

今後の方針

今後のビジネス展開－建築関連事業

JIC

副原料として機能材を添加し、新しい機能商品を開発し、お客様に提供しています

建築で

関連資材

ライニング材
調湿資材
住宅用断熱材

関連工事

石綿除去工事

建物の
防火材・耐火材
&
耐火被覆工事

幅広い生活分野で

機能材

CFRP型材
学校教材
サイン材
粉体

● 用途開発による新市場創出

■ 燃えない素材特性に機能添加

✓ けい酸カルシウム材に樹脂を混合して、加工性を増強した材料を、いろいろな用途に展開
✓ 精度よく加工でき、高耐熱性の材料

・不燃デザインパネル　・炭素繊維強化プラスチック用型材
・学校教材、版画材料　・サイン材料

不燃デザインパネル施工例
（展示施設）

炭素繊維強化プラスチック用型材
（レーシングカー部品の例）

今後のビジネス展開－建築関連事業

JIC

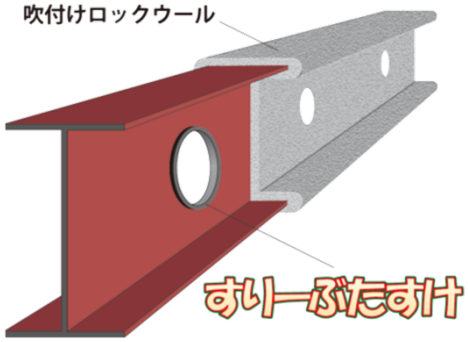
JICは、建物の耐火性能の向上要求に適用できる製品を開発し、提供しています

●用途開発による新市場創出

■免震装置の耐火　めんしんたすけシリーズ

免震装置用耐火被覆材

■はりの設備配管が貫通する部分の耐火



はり貫通部耐火被覆材

■通信ケーブルが防火壁を貫通する部分の耐火

ケーブル延焼防止材

■煙突内側の断熱（煙突ライニング）

煙突ライニング材

今後のビジネス展開－プラント関連事業

JIC

プラントで

関連資材

プラントの耐火被覆
計装ダクトの耐火被覆　等

関連工事

足場工事
防食工事
熱診断
石綿除去工事　等

発電所や石油
プラントにおける高温
配管・機器の

保温材

&

保温工事

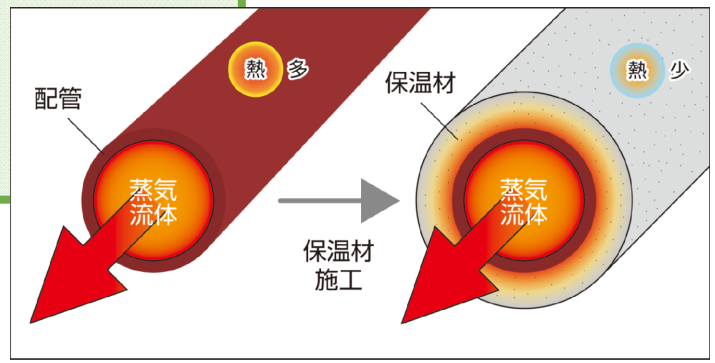
幅広い産業分野で

● 用途開発による新市場創出

耐熱資材

高温調理器
蓄熱暖房機
加熱炉のバックアップ断熱材
防火戸の芯材　等

保温材



● 保温材事業の関連事業開発（既存市場の拡大・深耕）

相対的にシェアの小さい「工事施工」分野の規模拡大を目指して…

■ **常駐現場の拡大**

→ 安定的な売上が確保できる常駐現場の拡大を推進

今後のビジネス展開－プラント関連事業

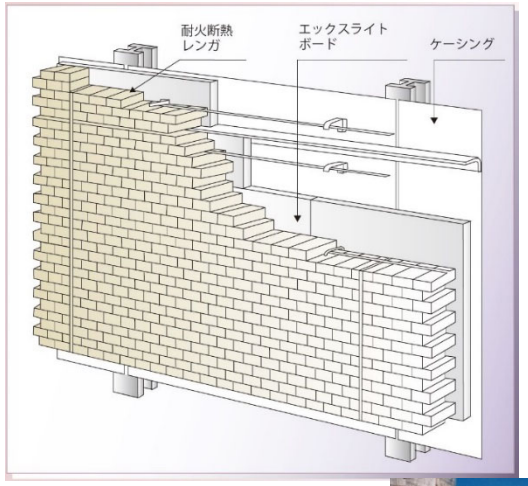
JIC

●保温材事業の関連事業開発（既存市場の拡大・深耕）

■ 保温工事に関連する新たな工事種類の開拓

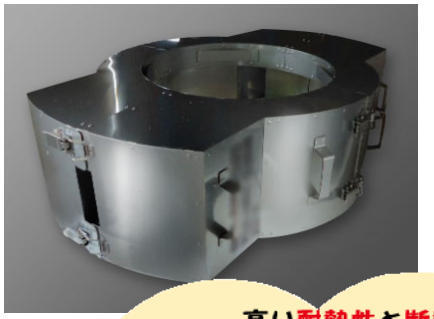
各種炉のバックアップ断熱

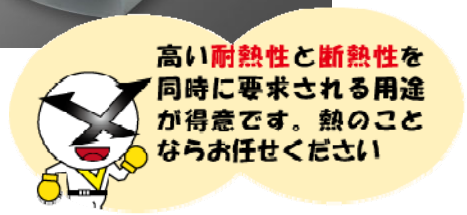
エックスライト

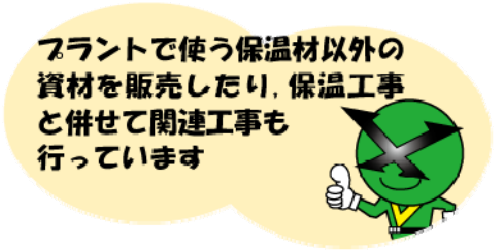


➢ 熱診断

➢ 原子力発電所向けの
金属保温材による工事

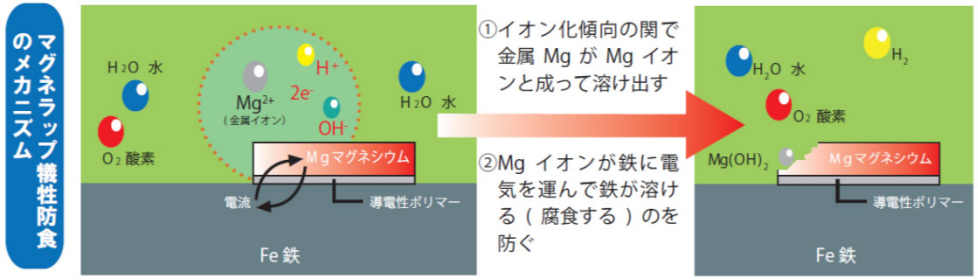






加熱炉

➢ 犠牲防食材を使った工事
（商品名：マグネラップ）



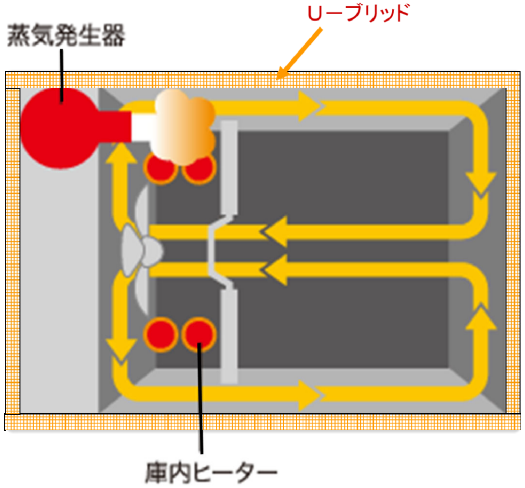
今後のビジネス展開－プラント関連事業

JIC

●用途開発による新市場創出

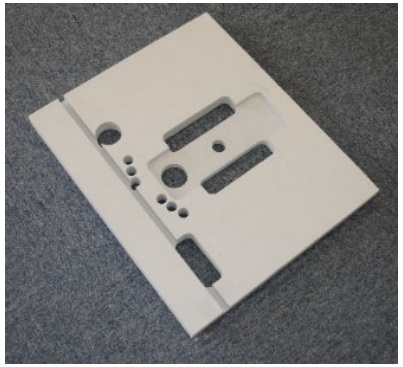
■ **顧客ニーズを現場から収集し、ニーズに適した商品開発を推進**

→ 高温になる用途で他の断熱材が適用できない用途での商品開発を積極化



オーブンレンジ（イメージ）

加工した保温材（イメージ）



内部が数百度の高温になる機器向けに耐熱性が求められる部材として提供

内部の配管や機器の形状にあわせた部材として工場加工して提供

今後のビジネス展開－海外事業

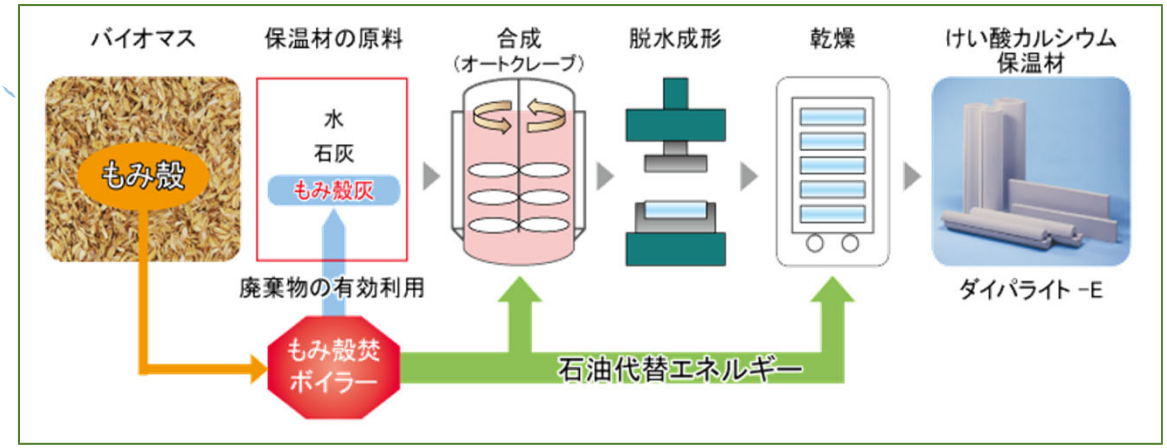
JIC

早期より海外への技術輸出を展開し、世界の産業界の発展に貢献
ベトナム工場を本格稼働し、さらに海外展開を進める方針

東アジア・東南アジアで
環境配慮型製品として
ベトナム工場製保温材の拡販

バイオマス（もみ殻）を原料・燃料としている保温材「ダイパライト－E」が、温室効果ガス抑制につながることをセールスポイントに拡販

・アンザン省人民委員会により環境配慮事業として認証
・2018年にUNIDO（国連開発機構）
東京事務所が運営する「環境技術データベース」に当社「ダイパライト－E」が登録

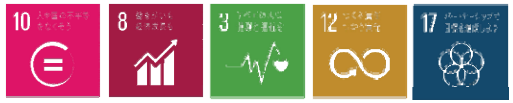


中期経営計画の概要

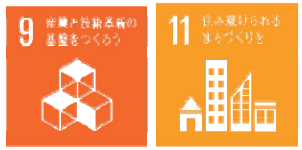
2030年、私たちが目指す姿

JIC

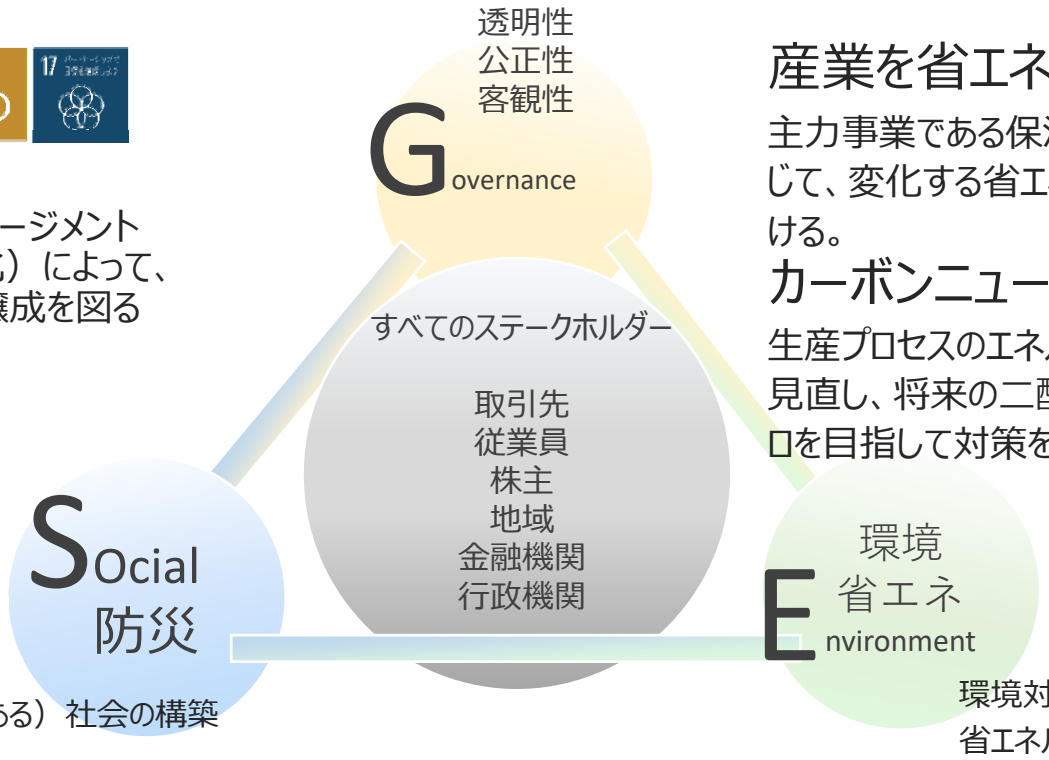
サステナビリティ（持続可能な）経営の推進



ガバナンスの高度化、
ステークホルダーとのエンゲージメント
（コミュニケーションの深化）によって、
企業力の強化、信頼の醸成を図る



レジリエントな（復元力のある）社会の構築

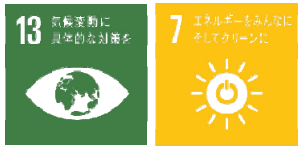


産業を省エネルギーで支える

主力事業である保温材、保温工事の提供を通じて、変化する省エネルギーへのニーズを支え続ける。

カーボンニュートラルに挑戦する

生産プロセスのエネルギーにかかる環境目標を見直し、将来の二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指して対策を行う。



環境対策
省エネルギー・地球温暖化対策

耐火建材で防災を支える

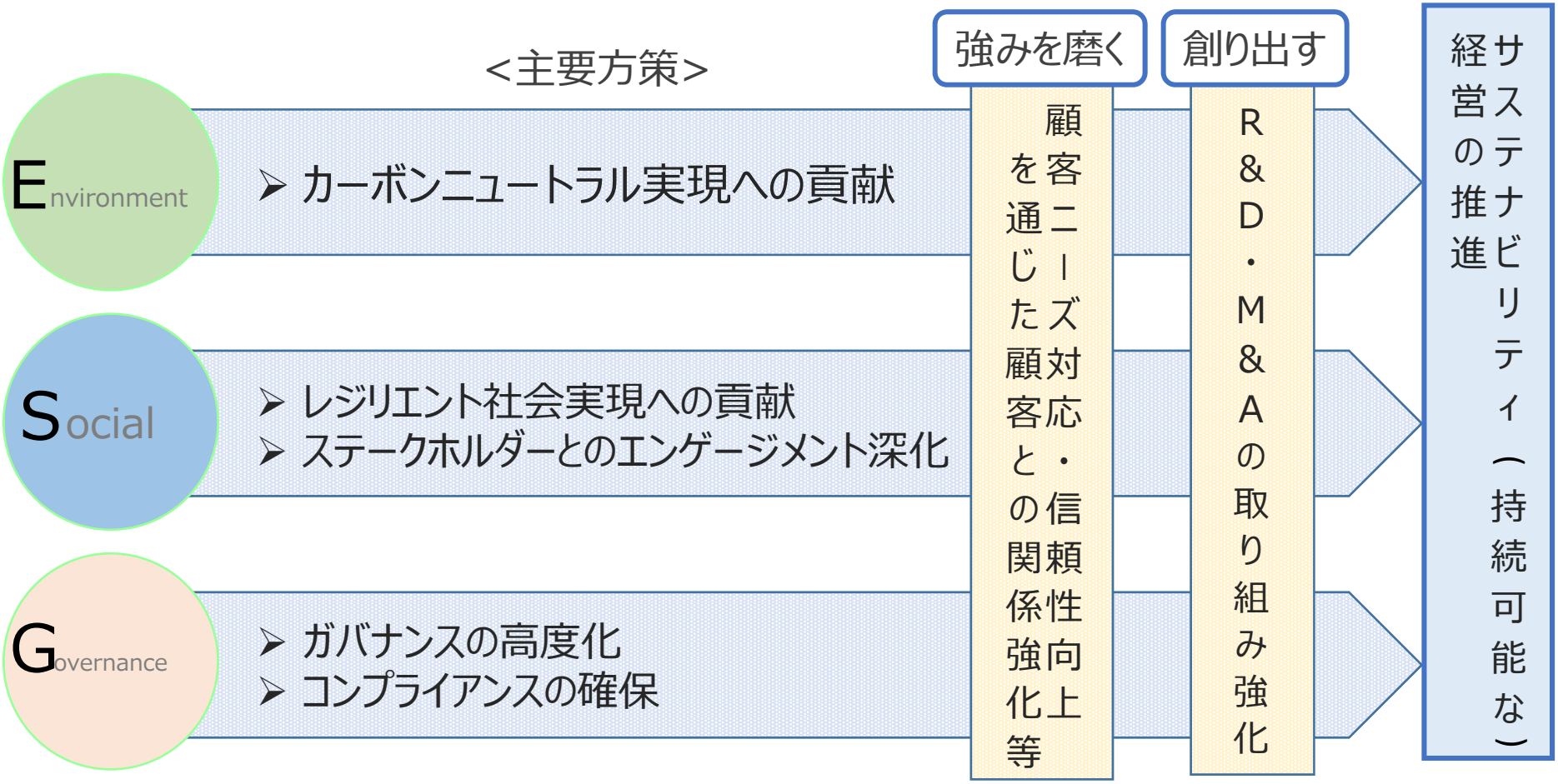
主力事業である耐火被覆材、耐火被覆工事の提供を通じて支える。また、免震装置の耐火工法など関連事業を拡充する。

環境新事業の創出

エネルギー等の諸問題の解決に貢献するため、新事業を立ち上げる。

2021年度を始期とする中期計画（2021年度～2023年度）

JIC



2021年度を始期とする中期計画

JIC

Environment カーボンニュートラル実現への貢献

- カーボンニュートラルという世界の取組みに対し、プラントの保温保冷分野に当社の高性能なけい酸カルシウム保温材を投入することで貢献
- ベトナム事業は、バイオマス事業でCO2排出量削減に貢献
- 環境分野での新事業開発の推進

Social レジリエント社会の実現への貢献

- 建設が着実に進むデータセンター、大型物流施設、高層オフィスビルに対して耐火被覆で防災に貢献
- 加工性がよい耐熱素材を活用して、自動車向けの型材など建材以外への用途開発を推進
- 防災関連商品でさらに、新商品の開発を推進

2021年度を始期とする中期計画

JIC

Social ステークホルダーとのエンゲージメント深化

- 取引先様、株主様、従業員、地域などすべてのステークホルダーに信頼される経営を実践
- ステークホルダーとのコミュニケーションを事業のあらゆる側面を通じて深める

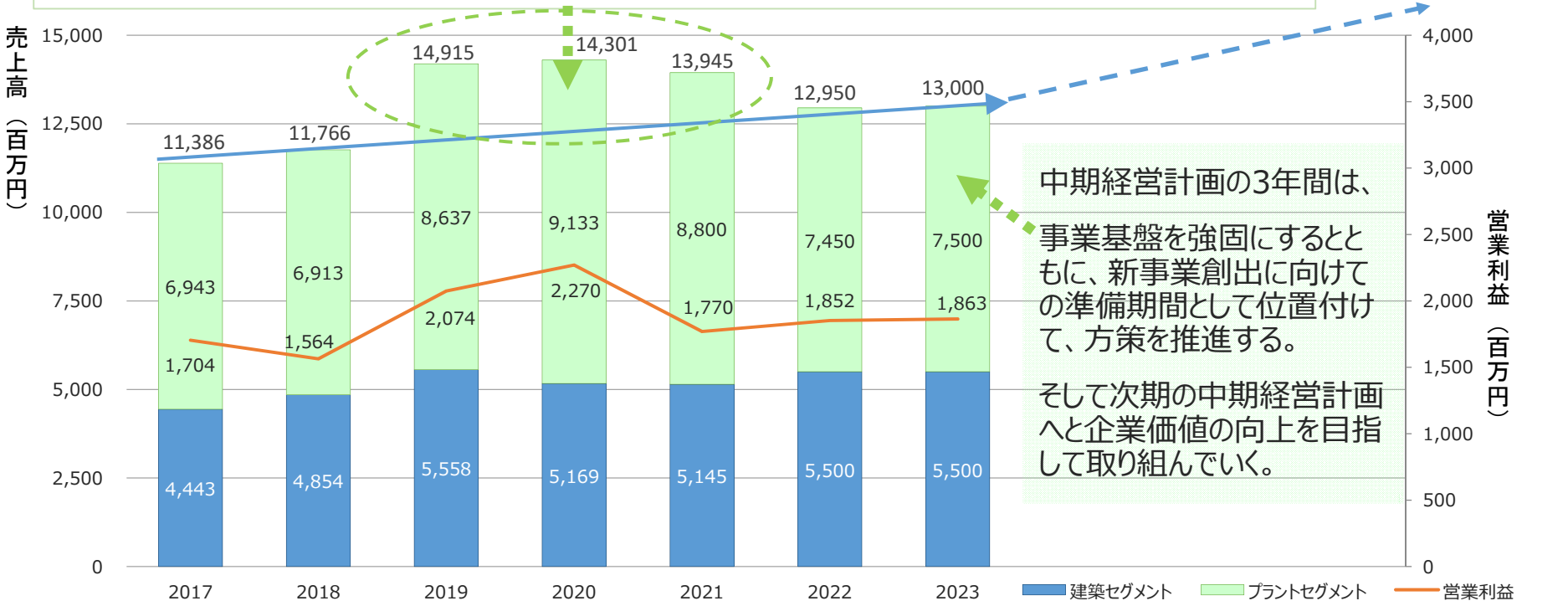
Governance ガバナンスの高度化・コンプライアンスの確保

- コーポレートガバナンス・コード（CGC）への適合性をより一層高め、公正性、透明性、客観性の向上に努める
- コンプライアンスを確保するための対策を実施

中期経営計画　事業計画

2019年度、2020年度は、プラント事業部門において発電設備などの大型工事の受注があり、収益が上振れ

そして未来



中期経営計画の3年間は、

事業基盤を強固にするとともに、新事業創出に向けての準備期間として位置付けて、方策を推進する。

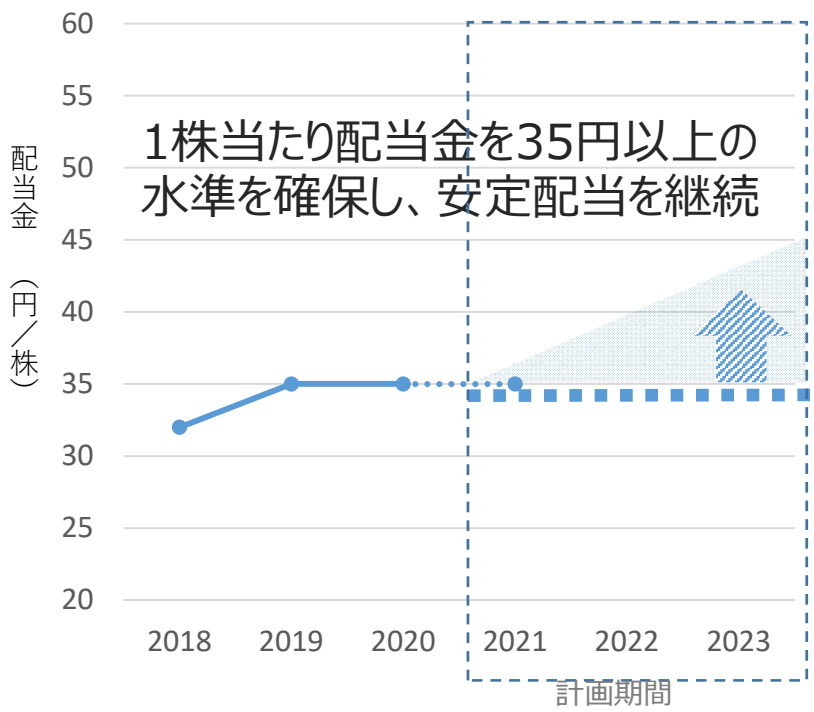
そして次期の中期経営計画へと企業価値の向上を目指して取り組んでいく。

（連結） 単位：百万円	2021年度 業績予想	2022年度 計画	2023年度 計画
売上高	13,945	12,950	13,000
営業利益	1,770	1,852	1,863
営業利益率	12.7%	14.3%	14.3%
ROE	—	10.0%	9.5%

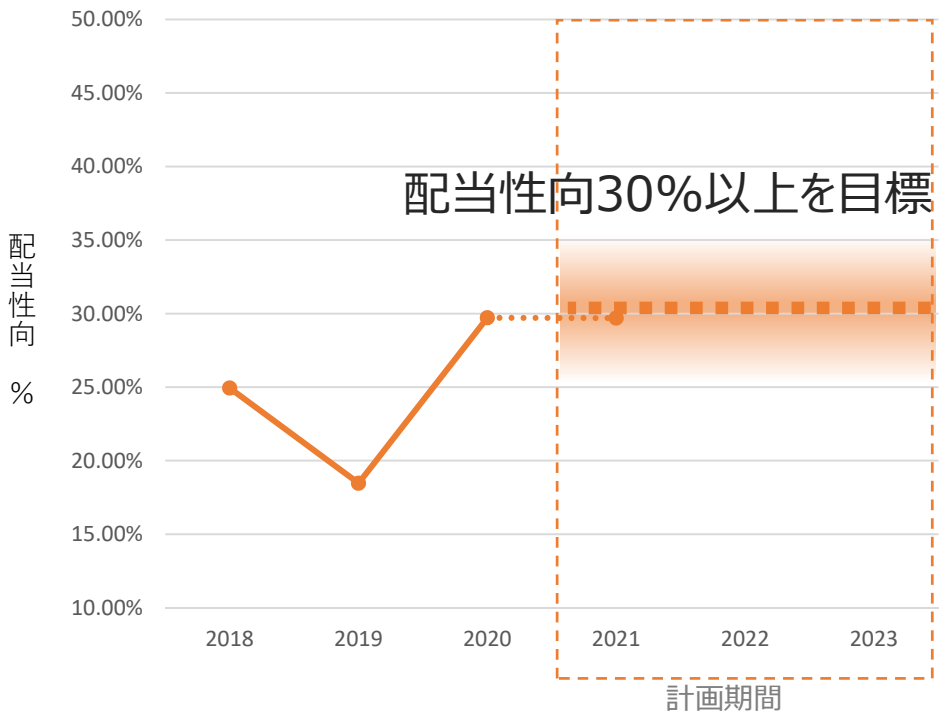
株主還元方針

- 持続的成長と企業価値の向上を図り、株主様に対して適切な利益還元をすることを基本方針とする。具体的には、１株当たり配当金を35円以上の水準を確保しつつ、配当性向30%以上を目標として、安定した配当の継続に努める。
- **2022年3月期予想配当は35円。**

配当金の推移



配当性向の推移



今期のトピックス

今期のトピックス

- 2022年3月期第２Qにおける主要な設備投資

  ①北勢工場における製造設備の一部更新を実施（135百万円）

  ②労働環境改善のため、新潟営業所の建替え等を実施（17百万円）

- DX推進／高度IT技術導入の一環として、昨年度導入したRPA、ワークフローに続き、当期は2022年3月を目途に製品検査工程でペーパーレス化ツールを導入予定（10百万円）

- 2023年3月期に岐阜地区の製品倉庫を集約し、全国配送のための物流センターを整備することを決定。作業合理化により従業員の安全対策や労働環境改善を推進（285百万円）

- お客様や従業員等の健康・安全の確保のため、出張・会食については必要性を吟味し、実施に当たっては感染対策を十分に講じること、引き続きテレワークを継続する等の取組みを実施。

- 子会社のジェイ アイ シーベトナムの工場は、コロナ感染拡大の影響でベトナム国内でロックダウンが実施され、当局の指導を受けて一時生産停止となる等、工場の稼働は制約を受けながら、断続的に実施している状況。また、営業面でも、東南アジアで人の移動や物流が影響を受け、プラント工事の施工が多くの国で停止ないし遅延していることの影響を受けている。

- 当社事業の動向については、建築事業で中小建設案件の耐火被覆材の需要が低迷、プラント事業で国内一般顧客向けの需要の低迷が依然続いており、製品販売売上が減少している。

- 財務の状況については、資金繰りに特段の影響なし。

（参考）決算実績等

2021年3月期連結決算実績サマリー

JIC

（単位：百万円）

	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期
売上高	11,386	11,766	14,195	14,301
営業利益	1,675	1,564	2,074	2,270
経常利益	1,626	1,510	2,024	2,220
親会社株主に帰属する当期純利益	1,457	980	1,464	1,023
1株あたり純利益	190.74円	128.29円	189.52円	117.76円
1株配当金	30.00円	32.00円	35.00円	35.00円

問合せ先

日本インシュレーション株式会社

管理本部経営企画部

TEL：06-6210-1250

Email：jic-ir@jic-bestork.co.jp

〒542-0081 大阪市中央区南船場1-18-7

【免責事項】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がある点にご留意ください。